

旭川市広報広聴推進懇談会（令和3年度第1回）会議録

会議の概要	
日時	令和3年7月27日（火） 午後6時30分から午後7時30分まで
場所	旭川市総合庁舎2階 議会棟第1委員会室
出席者 （参加者）	7名 岡田政勝，栗谷川拓巳，塩尻曜子，皆川克己，安岡理沙， 若林彩，渡辺直行
出席者 （事務局）	6名 （広報広聴課）杉山課長，島主幹 （広報広聴課広報係）阿部，村田，吉野 （広報広聴課広聴係）田代係長
会議の公開・非公開	公開
傍聴者	なし
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 参加者名簿 ・資料2 参加者座席表 ・資料3 デジタルサイネージについて ・資料4 旭川市の広聴事業について

1 開会

(1) 参加者確認

(2) 資料確認

2 議事

(1) 議題1 「進行役選出」

(事務局)

・本懇談会の進行役の選出について，事務局では，要綱第4条の規定に基づき，旭川市社会福祉協議会の岡田さんをお願いしたいと考えている。

- ・異議がないため岡田さんを選出する。
これからの議事進行をお願いします。

(進行役)

- ・それでは，議事を進行する。

(2) 議題2 「市勢要覧,暮らしの便利帳の発行に関する報告」

(進行役)

- ・議題2 市勢要覧，暮らしの便利帳に関する報告を，事務局から行う。

(事務局)

【市勢要覧】

昨年度の同懇談会において参加者の皆さんからいただいた意見と，今回発行する市勢要覧に反映した部分についての説明。

- ・写真全てに注釈が付いていて見づらい。
→各ページに掲載する写真は1～2枚とし，特に強調したい写真にだけ注釈を付け

る。

- ・データは文字だらけにせず、グラフを多くしたほうが見やすい。
→これまではページ数に限りがあるためグラフを掲載できなかったが、今年度からは資料編を別冊としたため、グラフの掲載スペースを確保した。
- ・データに関連がなく、何を伝えたいのかわからない。
→これまでは1年だけのデータを掲載していたが、今回から過去3年分のデータを掲載し、経年での変化を見られるようにした。
- ・掲載されている全てのデータが必要だとは思わない。強調したいデータだけでよいのではないか。
 - ・オリンピックのメダリストを大きく取り上げるべきだと思う。
- 旭川市の特徴的な記録やランキングをまとめたページを設けた。
- オリンピック選手の写真の掲載については使用料金が発生するため、今年度の発行分では断念した。
- ・毎回発行するごとにテーマを変えて、数年分そろえば完成としたら面白いのではないか。
 - ・最初の5ページ程度で印象が決まるので、冒頭に目立たせたい分野を掲載するべき。
- 冒頭の3～6ページを特集とし、今回は「旭川家具の歴史」と「デザイン都市」にスポットを当てて掲載した。また、別冊でもそれらに関する年表を作成した。次年度以降は別の分野を特集記事として掲載し、年度ごとに変化を持たせたい。
- ・掲載している写真のクオリティが低い。
→市勢要覧用の写真の撮影ができなかったため、ほとんどが広報誌に掲載した写真を使用している。見せ方を工夫したつもりだが、次年度以降も引き続きの課題であると認識している。

【暮らしの便利帳】

- ・2021年版は、10月の発行、11月の全戸配布を予定。
- ・今回は新型コロナウイルス感染症に関するページを用意し、基本的な感染防止対策や健康に関する内容を盛り込んでいる。
- ・掲載内容については前回と比べて大きな変更はないが、次回以降の発行については、発行形態や掲載内容など、改めて検討することになると思う。
- ・暮らしの便利帳の話からは少しそれるが、共同発行事業者である株式会社サイネックスから「官民協働によるゼロ予算事業」として「デジタルサイネージによる広報活動推進」の提案があり、連携して事業を展開していくこととなったことを報告させていただく。
- ・株式会社サイネックスがイオンモール旭川駅前店に大型のデジタルサイネージを設置し、旭川市が行政情報や災害情報、イベント情報、プロモーション動画などの情報を提供することにより、市民や本市を訪れる方に対して効果的な広報活動を展開する。
- ・株式会社サイネックスは同様の事業を全国で展開しており、北海道では旭川市が初となる。
- ・今年11月の設置を予定しているので、駅前に足を運んだ際には是非ご覧いただきたい。

(進行役)

- ・事務局からの説明等を踏まえて、御意見、疑問点等があればどうぞ。
- ・特にないようですので、次の議題に進みます。

(3) 議題3 「旭川市の広聴事業に関する説明及び意見聴取について」

(進行役)

・次に、議題3 旭川市の広聴事業に関する説明及び意見聴取について、事務局から説明する。

(事務局)

・広聴係では、「まちづくり対話集会」「市長への手紙」「市民の声（陳情・要望等）」「市民の声受付箱」「市民アンケート」「市政モニター」の6つの事業を活用して、市民の声を聴取している。

・これらの事業を通して、個人や団体の方から広く意見やアイデアを聞き、市政運営やまちづくりに反映している。

・広聴のあるべき姿としては、幅広い世代の皆さまから様々な機会を通して意見を聴取し、これを市政に反映することや情報共有することによって市民参加を推進することである。

・また、これにより市民と行政が互いに理解や信頼を深めていくものであれば嬉しい。そのためにも市民ニーズを的確に把握することが必要だと感じている。

・幅広い世代からの意見聴取が望ましいが、10代、20代からの意見を受け取ることが少ない。

・令和元年度からは若い世代を中心に「まちづくり対話集会」を開催しており、大学生、専門学生、高校生のほか、地元企業の若手職員などに参加していただいている。

・広報と広聴の連携として、広聴事業の中で寄せられた意見や反映状況をどのように市民の皆さんに共有できるか。

・「市長への手紙」や「まちづくり対話集会」「市民アンケート」「市政モニター」に寄せられた意見の反映状況は、広報誌やホームページに掲載している。

・寄せられた意見を広く市民の皆さんに知ってもらえれば、また新たな意見やアイデアが出てくると思われる。

・寄せられた多くの意見をホームページ等に掲載して共有することはできるが、個人的な要望や意見もあり、掲載に適さない内容のものもある。

・意見の公表については慎重な判断が必要であり、それを広く市民の皆さんに周知する手法は難しいと感じている。

(進行役)

・事務局からの説明等を踏まえて、御意見、疑問点等を伺いたい。

(参加者)

・広聴事業を大きく分けて6個もあるのは多いと思った。

・親しみやすい名称にすると若い世代からの意見も増えるかも。

(参加者)

・複雑な事態が起きると多くの同じような意見が集まるが、それが無いということは旭川にとって良いことだと思う。

・私はこれらの制度を利用したことがないが、若い世代の通信方法がオープンになっているため、1人の意見が届くということがわかれば、色々な意見が届くようになると思う。

・極端な意見を耳にすることもあるし、増える可能性もあると思うが、方法を得ることによって意見を出しやすくなるので、地道な広報活動が必要である。

・週1回のテレビ番組「旭川市民ニュース」を楽しみにしている。一般の人に対しては、あのような広報活動でよいのではないかと思う。

・比較的災害が少ないが、災害などについての対策や展望などを広めると、みんなが安心する。

(参加者)

・幅広い世代からの意見聴取ということが課題に上がっていたが、若い世代の年齢層がはっきりしない。
・広聴事業の対象は高校生ぐらいかと思うが、小さいうちから旭川市の行政に興味を持ってもらうことを地道に続けていくことが大事。
・雇用労政係で高校生向けに学習サイトを立ち上げて授業している。このような機会に行政の事業を説明し、旭川市の行政に興味を持ってもらえるよう各部署と連携して何かできないか。

(参加者)

・若い世代からの意見が少ないということだが、意見をくれた方の年齢層がグラフになっていて、10代、20代の意見が足りないと記載されていれば意識が変わると思う。
・自分と同世代の人がどれぐらいいるのか気になっていると思う。
・文章を読まない人でも、グラフだとパッと見ただけで情報が入ってくる。
・旭川市のSNSはほぼ確認しているが、「市長への手紙」などについては見た記憶がない。発信されていると思うが、自分にとって貴重でない情報は流してしまう。タイトルに「10代、20代の意見を求めています」「主婦に呼びかけ」など付けると目に留まると思う。
・6つの項目の中で知っていたのは、広報誌に挟まっている「市長への手紙」ぐらい。対話集会については、昨年、参加の声を掛けてもらって知った。それ以外のは四十数年旭川に住んでいて知らなかった。

(参加者)

・市民の声の募集よりも、集まった声に対してどういう回答をしているかをアピールしてほしい。
・こんなに声が反映されているなら言ってみようという人が増えると思う。
・SNSへの書き込みはたくさんあるが、旭川市は回答していない。過激な思想の人に対して回答しづらいのはわかるが、返事をくれないと思われる
・6つもチャンネルがあるのはよいと思う。

(参加者)

・新しい市勢要覧は改善傾向にあるかなと思った。
・一般的に若い世代とか年寄りとか、世代別に考えるのは日本の特性。
・多様化した社会の中で、年齢で区分するとその人の属性・特性がわかるが、世代別で考えすぎているのではないか。70歳でも10代より若い考え方の人もいるかもしれない。
・世代で区切らずに、旭川らしい物差しで意見を聞いたら面白いのでは。
・男女で分けてるが、どちらにも属していない人もいる。

(進行役)

・回答したものを電子的にまとめて閲覧できるようにするとよい。
・議会でどういう議案が出ているかもわからない。そういうものも市民に知らせてほしい。
・市政モニターは自分で手を挙げて参加し、市が決めたテーマについて意見を聴取しているが、若者や行政に興味のない人をターゲットにして、思いついたことを言ってもらってはどうか。

(事務局)

- ・市勢要覧の補足ですが、印刷が間に合っていないため、まだ修正できます。本日データ版で見て、御意見があれば反映できます。
- ・本編は2年ごとに作成し、データ版は毎年更新します。
- ・今年は本編とデータを両方更新し、来年は編集作業をして、再来年度に発行します。
- ・デザイン都市ということで、今年は工芸センターなどに監修してもらった。
- ・次の「暮らしの便利帳」は令和5年度に発行します。現在の委託先である株式会社サイネックスが、次回の契約は出来ないと言っていたが、やはりやらせてほしいと言ってきている。

(参加者)

- ・フードテラスに若い世代が寄りついていない。市勢要覧に掲載されていないから、取り上げたらどうだろうか。
- ・フードテラスは二重のガラス張りで、外から中が見えないため余計に入りづらい。

(事務局)

- ・フードテラスについては難しい話題ではありますが、中心市街地の活性化ということで、フードテラスの向かいの開発が進んでいるため、それらの話題を合わせて、広報誌などで取り上げることは考えられます。

(5) 議題4 「令和3年度第2回の議事について」

(進行役)

- ・議題4 令和3年度第2回の議事について、事務局から説明する。

(事務局)

- ・次回の懇談会は10月を予定している。
- ・議事については、改めて内部で検討した上、提示したい。

3 閉会

(進行役)

- ・以上で会議を終了する。

以 上